ウナギ産卵生態調査
1.　2008～2009 年の西マリアナ海嶺周辺におけるウナギ親魚の分布、性別、成熟状態

°黒木洋明・張　成年・渡邊朝生（水研セ中央水研）・井尻成保（北大院水）・
塚本勝巳（東大海洋研）・秦　一浩（水大校）・望岡典隆（九大院農）

【目的】2008 年から 2009 年にかけて、初めてウナギ（*Anguilla japonica*）の成魚が産卵海域と想定されていた西マリアナ海嶺南部海域で捕獲され、ウナギの生態特に繁殖に関連する生態に関する情報が飛躍的に増大した。本発表では調査結果を総括し、成魚と仔魚の分布、捕獲された成魚の状態を整理した。

【方法】大型の表中層トロール網を備えた水産庁漁業調査船開洋丸（2,630 トン）を中心とし、2009 年からは（独）水研センター漁業調査船北光丸（902 トン）、（独）水産大学校練習船天鷹丸（716 トン）の参加も得て、2008 年 5 月～6 月、2008 年 8 月～9 月、2009 年 5 月～7 月に西部太平洋の西マリアナ海嶺南部海域で、ウナギ捕獲調査を実施した。開洋丸では、トロール調査と同時並行して IKMT 等のプランクトンネットによるウナギ仔魚捕獲調査も実施した。また、調査海域では JAMSTEC 研究船白鳳丸と海洋観測結果の交換等の連携を行った。

【結果】ウナギ成魚は雄 6 尾と雌 6 尾の計 12 尾が捕獲され、その内訳は、2008 年 6 月に雄成熟個体 2 尾(GSI: 13.4-18.8)、2008 年 8 月に卵が残されていない産卵後の雌 2 尾、2009 年 6 月に雄 4 個体(GSI=19.3~40.3)と卵黄球期の卵が多数残存する雌 4 個体(GSI=9.0~47.8、うち 1 尾は多量の排卵卵を腹腔内に残し多回産卵の証拠を示す)であった。いずれの個体も新月の前後の夜間に、西マリアナ海嶺に沿った海域の水深 170～250mを中心とした曳網で捕獲された。雌の成魚と孵化後間もないプレレプトケファルスが同時捕獲された場所は、産卵場と特定されるが、その捕獲場所はスルガ堆近くの北緯 14 度付近（2008 年 8 月）から海嶺南端部の北緯 12 度 15 分付近（2009 年 6 月）まで、かなり広い南北の拡がりがあった。また、2009 年 6 月に捕獲された雌雄 8 個体の捕獲場所は、北赤道海流の中で東西に 100km 程度の拡がりがあり、西側で雄、東側で雌が捕獲される傾向があった。今後は、産卵場形成、成熟・産卵のメカニズムの解明と天然での仔魚の餌料の解明を目的とした調査研究を推進する必要がある。